



受け入れ先の従業員に案内されリンゴ選果場を見学する千代松・泉佐野市長（左から2人目）

弘前市長「農業活性化に」

派遣元・泉佐野市長が訪問

国の地方創生事業を活用し弘前市に就農希望の若年者を派遣することになった大阪府泉佐野市の千代松大耕市長が26日、弘前市を訪れ、就農希望者の研修先となるリンゴ加工施設などを視察した。泉佐野市の就農希望者16人が3月に来弘し、研修がスタートする。

両市は昨年、地方創生の一環として「都市と地方をつなぐ就労支援カレッジ事業」を国に共同提案し、採

択された。同事業では、就農を希望する若年未就職者を泉佐野市で募り、労働力が不足している弘前市のリンゴ農家に派遣し、農業を実地研修してもらう。事業費は国の交付金3096万円で賄う。

NPO法人おおさか若者就労支援機構（泉佐野市）が就農希望者を募集しており約50人が相談中。このうち第1陣（8人）が3月14日、第2陣（同）が同

16、29日に弘前市での研修に臨む。

千代松市長は、研修先のリンゴ販売業・イーエム総合ネット弘前（今井正直代表取締役）のリンゴ選果場や宿泊所を見学。取材に「仕事に就かない、あるいは就けない若者の自立支援につなげたい。地元を離れて新たな環境で仕事に取り組むことで、労働意欲を高めてもらいたい」と話した。

両市は来年度以降も事業を継続する方針。弘前市役所を訪れた千代松市長との懇談で、葛西憲之弘前市長は「リンゴ産業の課題解決はもとより、全国の地域農業活性化のモデルになるような枠組みにしたい」と抱負を語った。（秋元宏宣）